I-O DATA

設置する

設定する

付録

困ったときには

画面で見るマニュアル

ADSパネル搭載27型ワイド液晶ディスプレイ
DIOS-MF271Xシリーズ

02版

もくじ

設置する..............................3

設定する..........................12

付録..................................28

困ったときには.............46

設置する

設定する

付録

困ったときには

【もくじ】へ

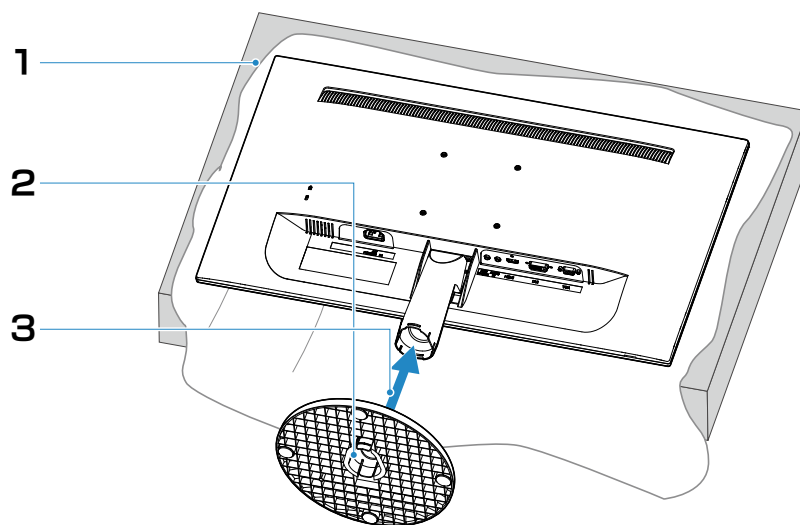
設置する

台座を取り付ける

1 平らなところに柔らかい布などを敷き、パネル面を下にして置く

2 「台座の穴」と「足」の形状を確認し、向きを合わせる

3 台座を持ち、足にグッと押し込む

⇒カチッと音がして、ツメがロックされる

台座取り付け時のご注意

液晶パネルが故障または破損する恐れがあります。

●本製品を床などに落とさない

●パネルを傷つけない

●ディスプレイ部(表示面)を手で強く押さえない

台座を取り外す方法

【台座を取り外す】(39ページ)をご覧ください。

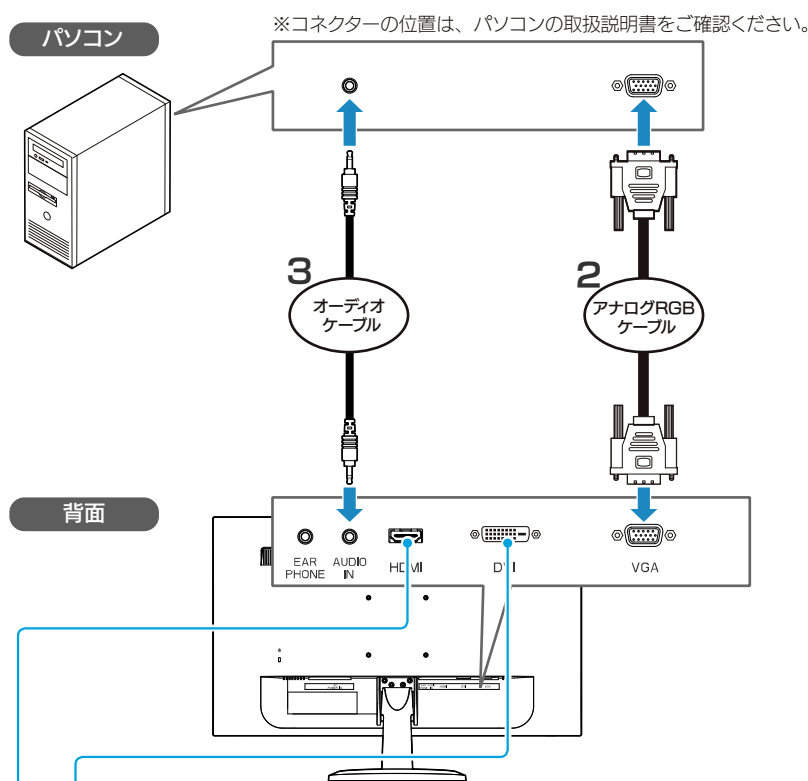
パソコンとつなぐ

つなぐ

1 本製品とパソコンの電源がオフになっていることを確認する

2 本製品とパソコンを、アナログRGBケーブルでつなぐ

※コネクターがゆるまないよう、ネジをしっかり締めてください。

3 本製品とパソコンを、添付のオーディオケーブルでつなぐ

パソコンとDVI（デジタル）でつなぐ

- DVIとパソコンを、**別途用意した**DVI-Dケーブルでつなぎます。
- 音声入力のため、オーディオケーブルもつないでください。

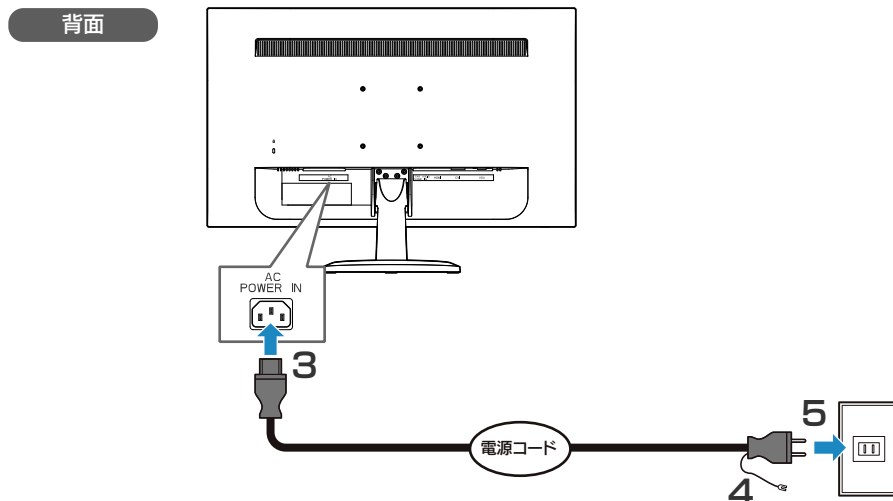
パソコンとHDMIでつなぐ

- HDMIとパソコンを、**別途用意した**HDMIケーブルでつなぎます。
- HDMIで音声を入力できる場合は、オーディオケーブルをつなぐ必要はありません。

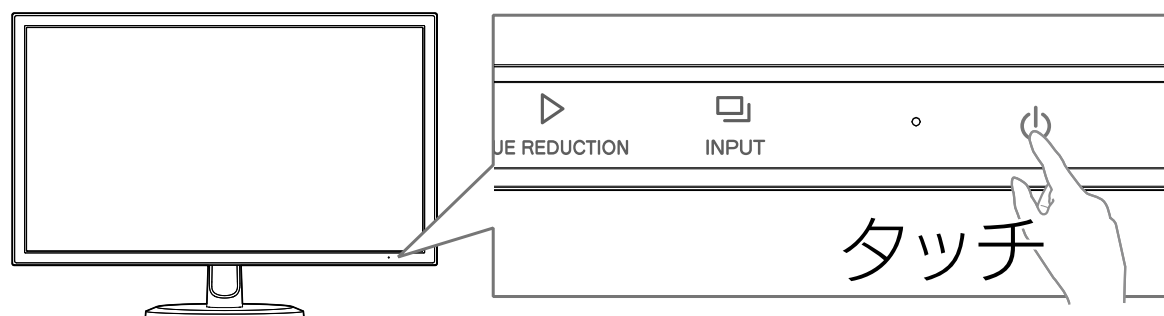
4 電源コードを本製品につなぐ

5 アースをつなぐ

6 電源プラグをコンセントにつなぐ

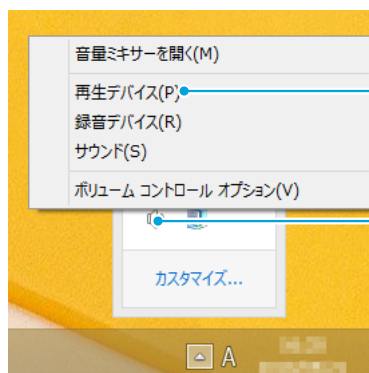
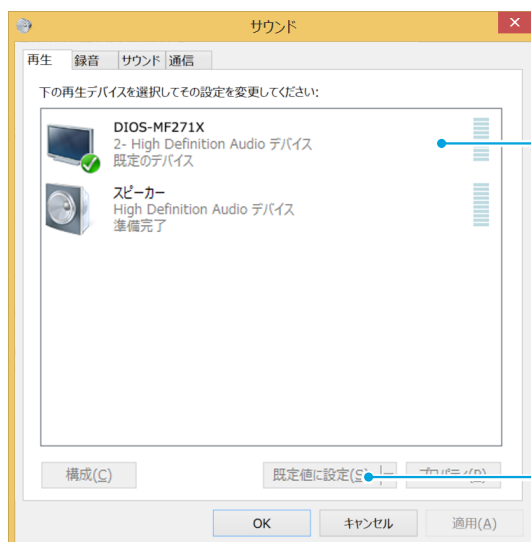
背面

ご注意：アースについては以下を守る

- 必ずアースをつなぐ
  アースがつながれていない状態で万一故障した場合、感電の恐れがあります。
- 電源プラグをコンセントにつなぐ前に、アースをつなぐ
- アースを外す前に、必ず電源プラグを抜く
- アースをコンセントに挿入、接触させない
  火災・感電の原因になります。

7 本製品とパソコンの電源をオンにする

パソコン側の設定（HDMI でつないだ時）

HDMIケーブルでパソコンとつないだ場合、パソコンによっては、音声の出力先を設定する必要があります。

1

2

Windows の設定

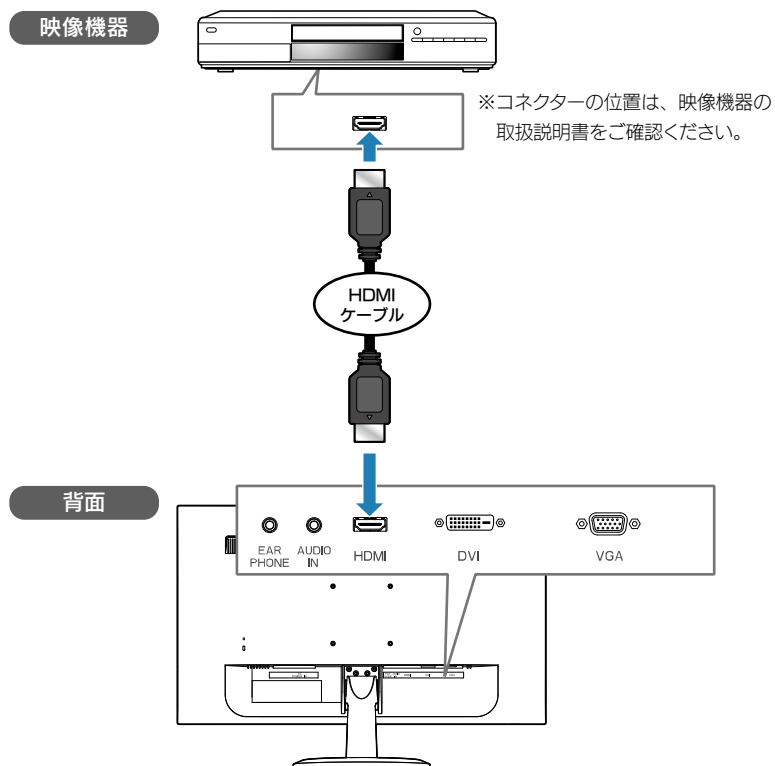
Windowsで設定できる内容があります。

●【省電力の設定をする(Windows)】（26ページ）

映像機器とつなぐ

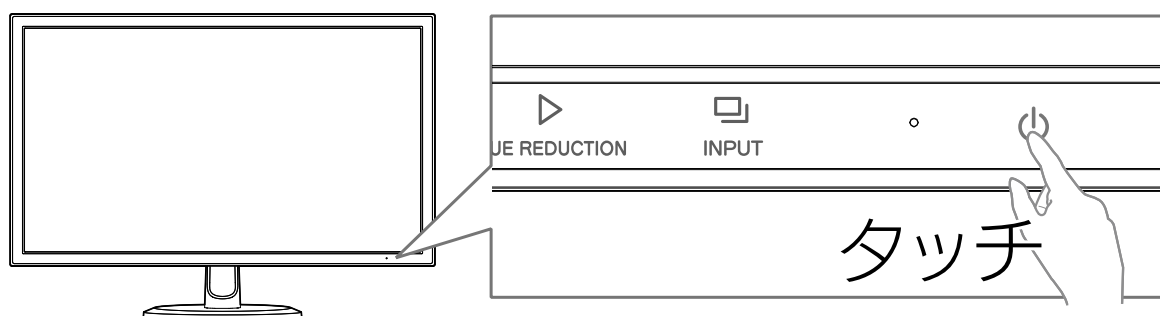
ここの手順は、パソコンとつないだ後につなぐものとして案内されています

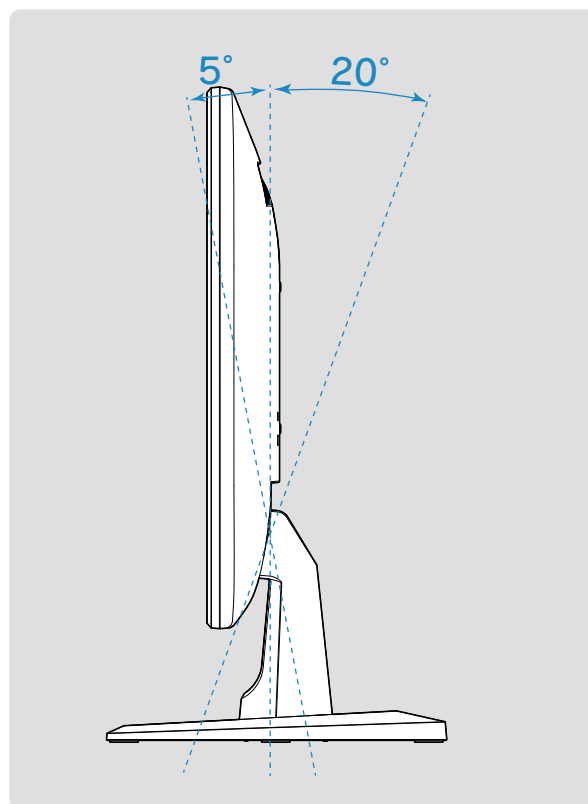
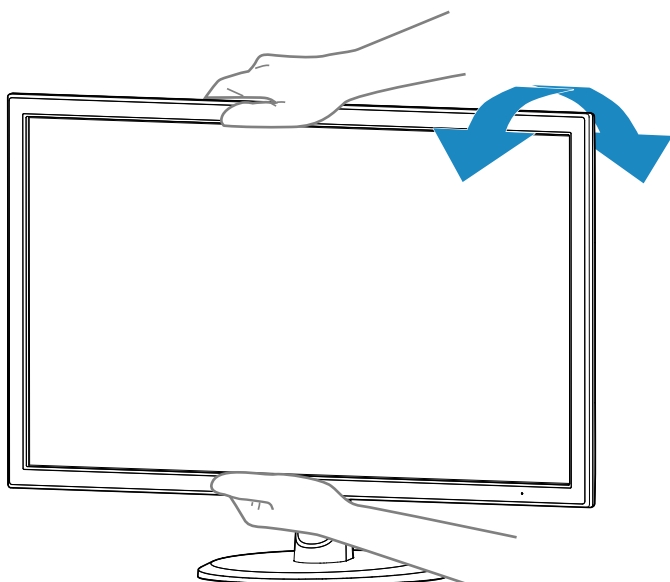
●アースやコンセントとの接続については、【パソコンとつなぐ】（5ページ）をご覧ください。

本製品と映像機器を、**別途用意した**HDMIケーブルでつなぐ

設置する
設定する
付録
困ったときには

電源をオン／オフする

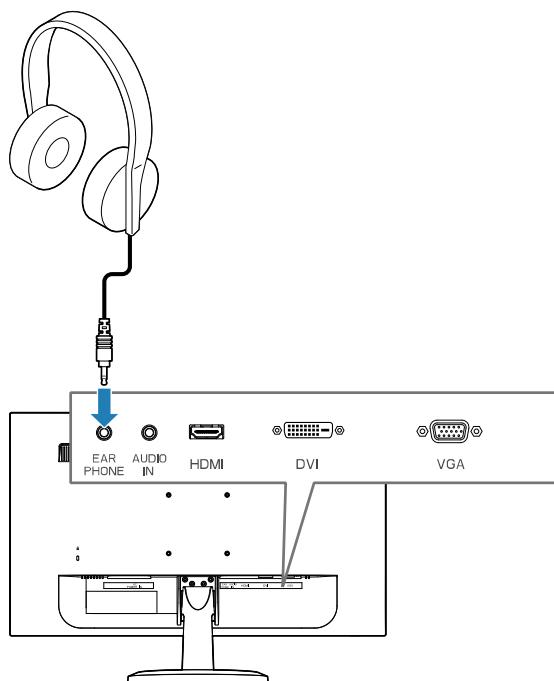
設置する
設定する
付録
困ったときには

本製品の⏻マークが印字された部分をタッチします。

角度を調整する

本製品のディスプレイ部は、前に5°、後ろに20°の範囲で調整してください。
調整の際は、下図のように両手で上下のフレーム部分を持ってください。

ご注意：角度の調整について

- 記載された範囲以上に倒して使わない
  本製品が転倒または破損するおそれがあります。
- 調整の際は、手や指をはさまないように気をつける

イヤホンをつなぐ

本製品の背面にある「EARPHONE」端子にイヤホンをつないでください。

ご注意：イヤホンをつなぐにあたって

●イヤホンを耳に付けたままつながない
音量によっては、耳をいためる原因となります。

●音量を上げすぎない
大音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えます。

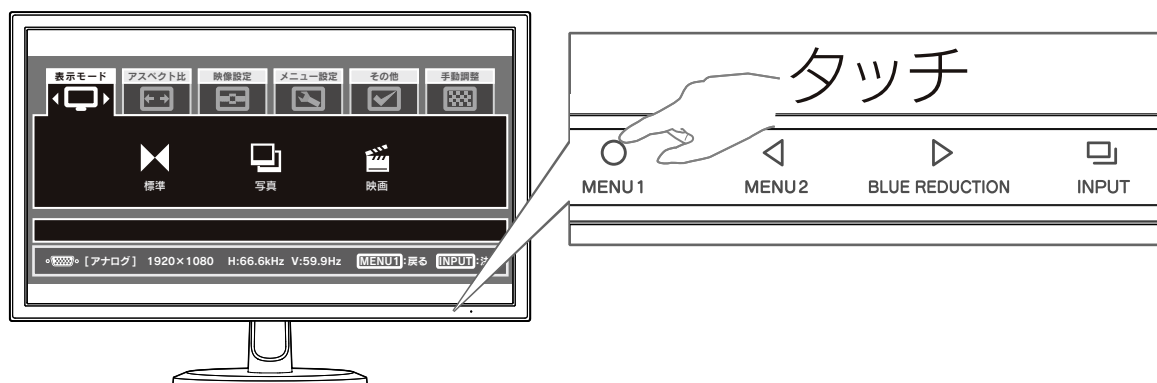
設置する
設定する
付録
困ったときには

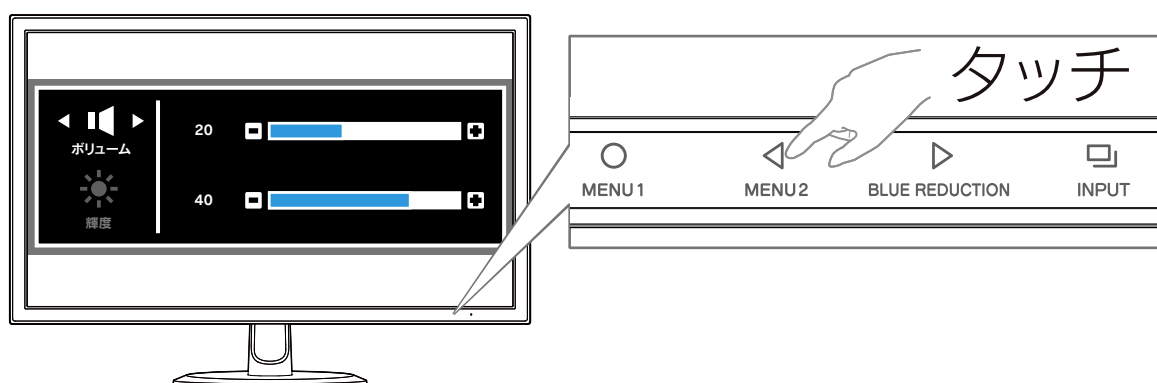
設定する

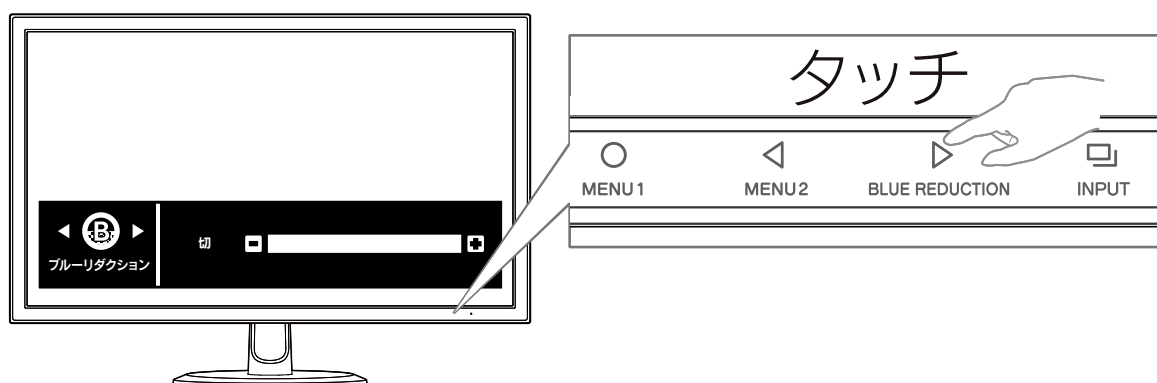
設定メニューを開く

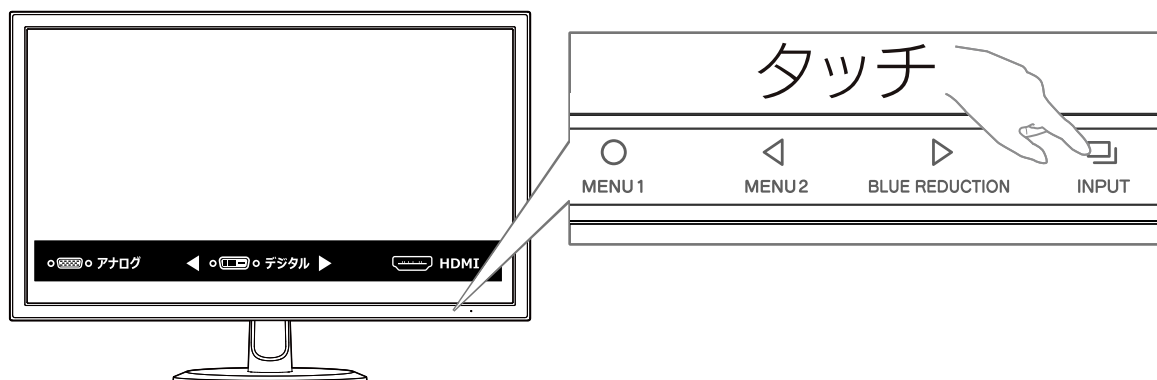
設定メニューとは、本製品の色々な設定をするためのメニューです。
通常の開き方に加え、一部機能の設定を直接開くこともできます。

設定メニューを開く

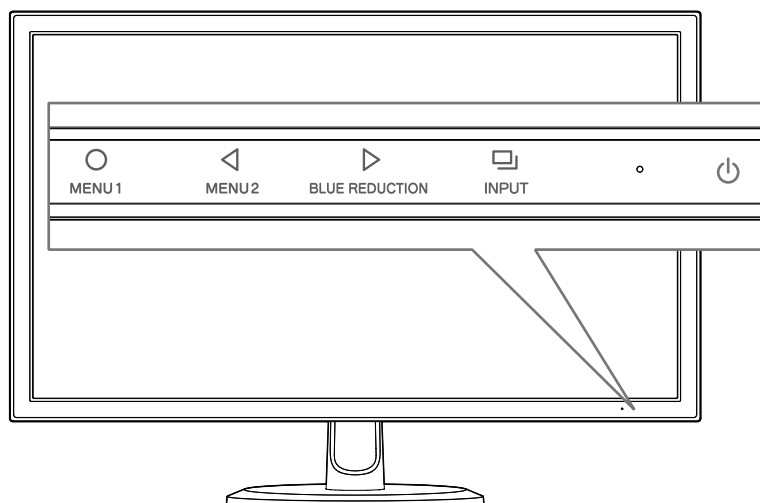
本製品の○（MENU1）が印字された部分をタッチします。

ダイレクト設定メニューの音量・輝度を開く

本製品の◁（MENU2）が印字された部分をタッチします。
⇒【音量を調整する】（18ページ）参照

ダイレクト設定メニューのブルーリダクションを開く

本製品の▷（BLUE REDUCTION）が印字された部分をタッチします。
⇒【ブルーリダクションの設定をする】（16ページ）参照

入力切替のメニューを開く

本製品の（INPUT）が印字された部分をタッチします。
⇒【表示する機器を切り替える（入力切替）】（19ページ）参照

設置する
設定する
付録
困ったときには

設定メニューの操作方法

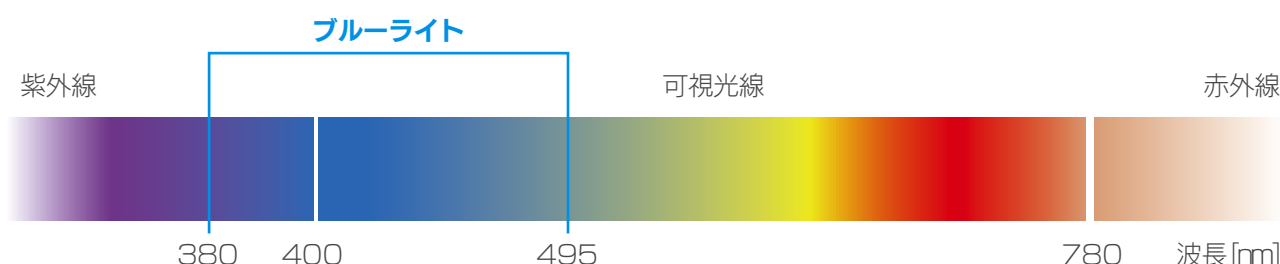
設定メニューの操作には、各ボタンを使います。

設定メニューを表示する	○をタッチする
選択カーソルを移動する	◁▷をタッチする
選んだ項目を決定	をタッチする
キャンセル／1 つ戻る	○をタッチする
設定値を増減する	◁▷をタッチする

設置する
設定する
付録
困ったときには

ブルーリダクションの設定をする

パソコンで作業をする際に目が疲れる原因とされるブルーライト。
ブルーリダクションはディスプレイ自体がブルーライトを低減させるという新しい発想の機能です。

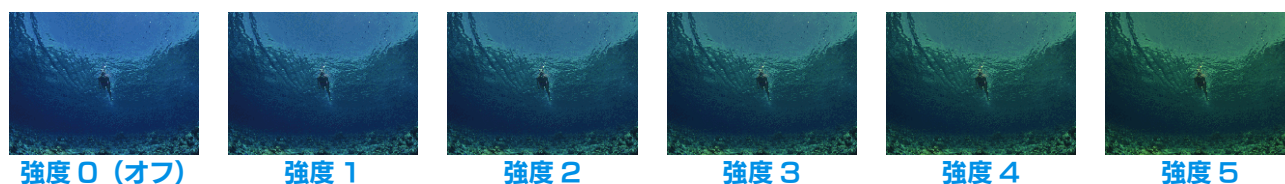
ブルーライト（青色光）とは

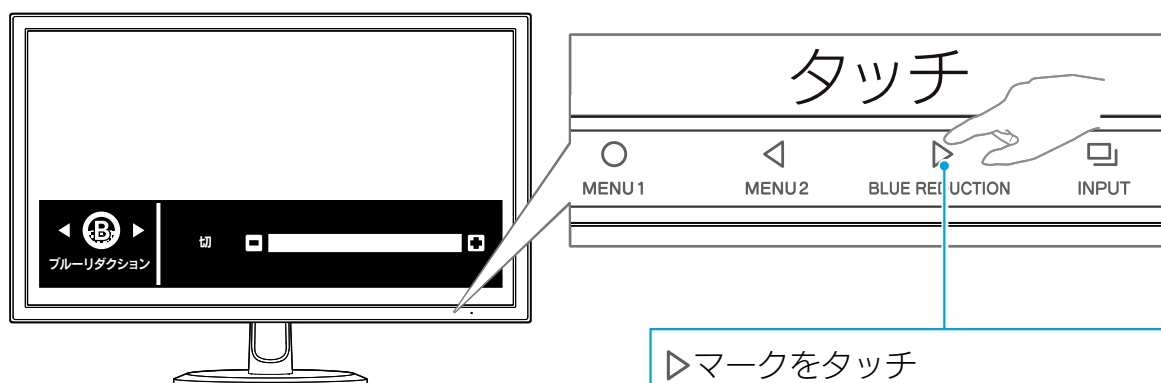
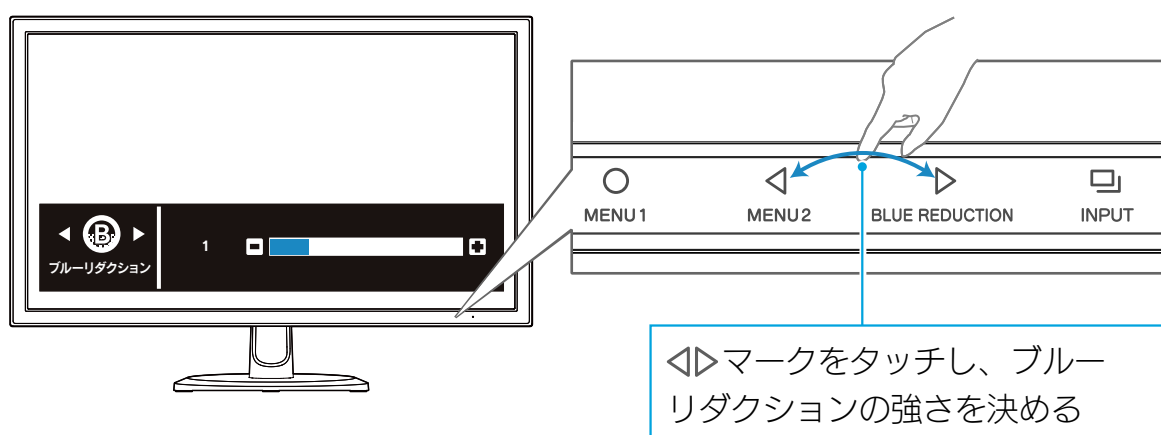
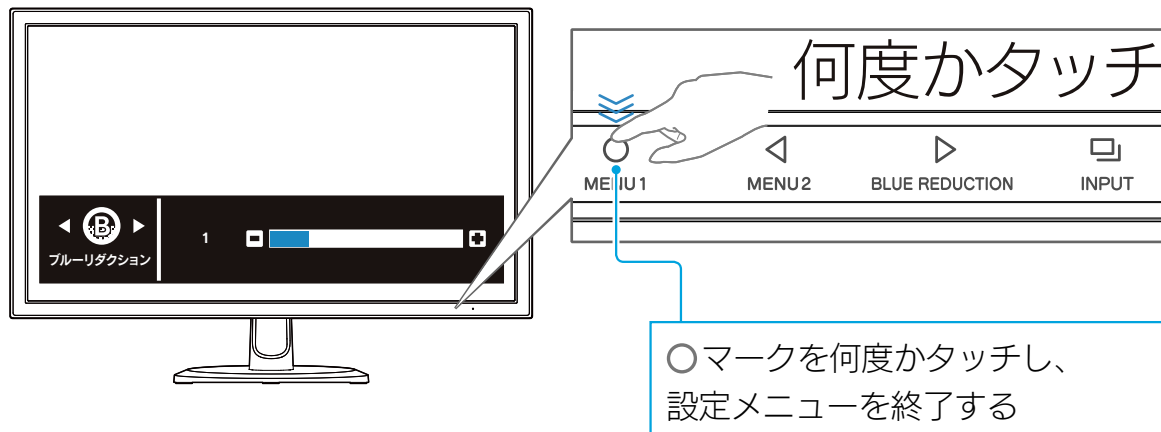
ディスプレイから発せられる青い光は、パソコン作業時に目が疲れる原因とされています。
また、長時間浴びることで体内時計を狂わせる作業があるとも言われています。

※ブルーライトとは380nm ～ 495nmの青色領域の光を指しています。

ブルーリダクション機能とは

ブルーライトを５段階で低減することができます。
写真鑑賞やデザインの際には強度を弱く、事務作業の際には強度を強くするなど、作業内容に合わせてご調整いただけます。

ブルーリダクション強度による画面の変化イメージ

強度０（オフ）　強度１　強度２　強度３　強度４　強度５

※本書のブルーリダクション機能に関する画面はすべてイメージです。

ブルーリダクション機能を設定する

設置する
設定する
付録
困ったときには

音量を調整する

本製品に音声を入力している場合、本製品のスピーカーから音を出すことができます。

1

ボリューム 20
輝度 40
タッチ
MENU1 MENU2 BLUE REDUCTION INPUT

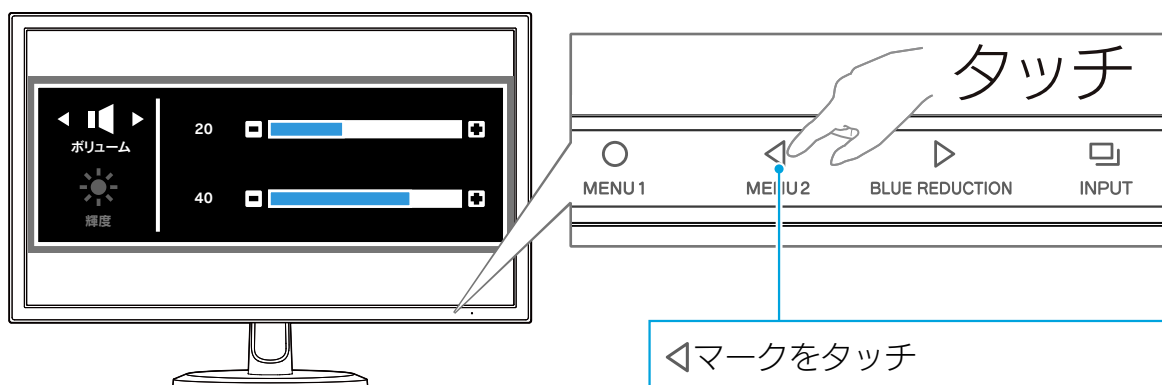
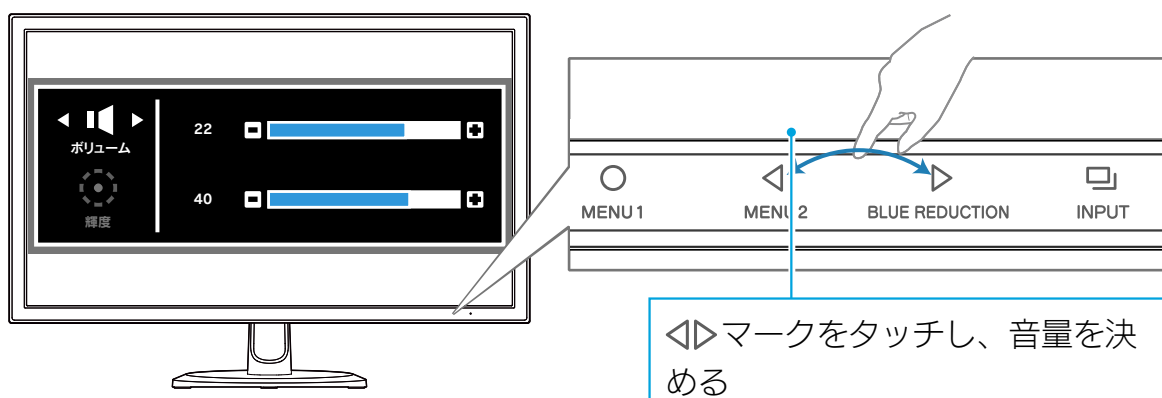
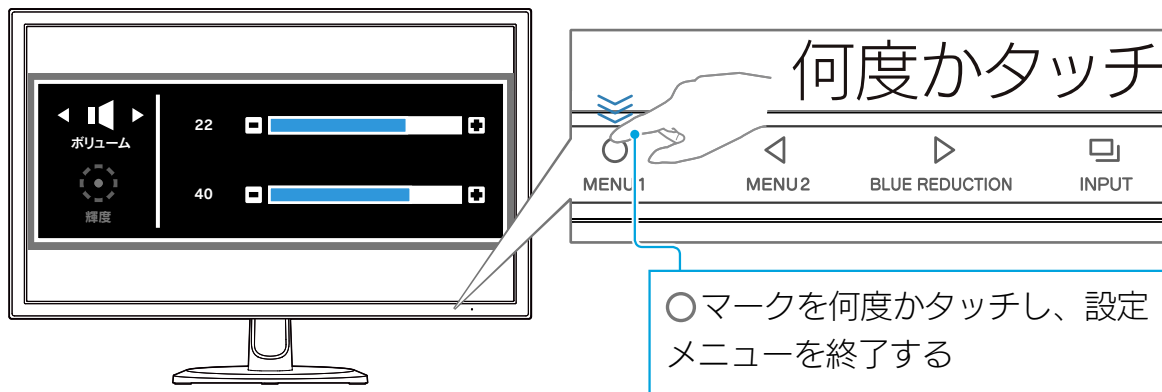
◁マークをタッチ

2

ボリューム 22
輝度 40
MENU1 MENU2 BLUE REDUCTION INPUT

◁▷マークをタッチし、音量を決める

3

○マークを何度かタッチし、設定メニューを終了する

スピーカーから音が出ない

- ●パソコンをDVI、VGAでつないでいる場合
  パソコンの音声出力と本製品のAUDIO INをオーディオケーブルでつないでください。
- ●パソコンをHDMIでつないでいる場合
  パソコン側で音声の出力先を設定する必要があります。
  【パソコン側の設定(HDMIでつないだ時)】(7ページ)参照
- ●全般
  ○機器側の音量設定を確認してください。
  ○イヤホンをつないでいると、スピーカーから音が出ません。

表示する機器を切り替える（入力切替）

本製品に複数の機器をつないでいる場合、表示する機器を切り替えられます。

1

タッチ

MENU 1　MENU 2　BLUE REDUCTION　INPUT

アナログ　デジタル　HDMI

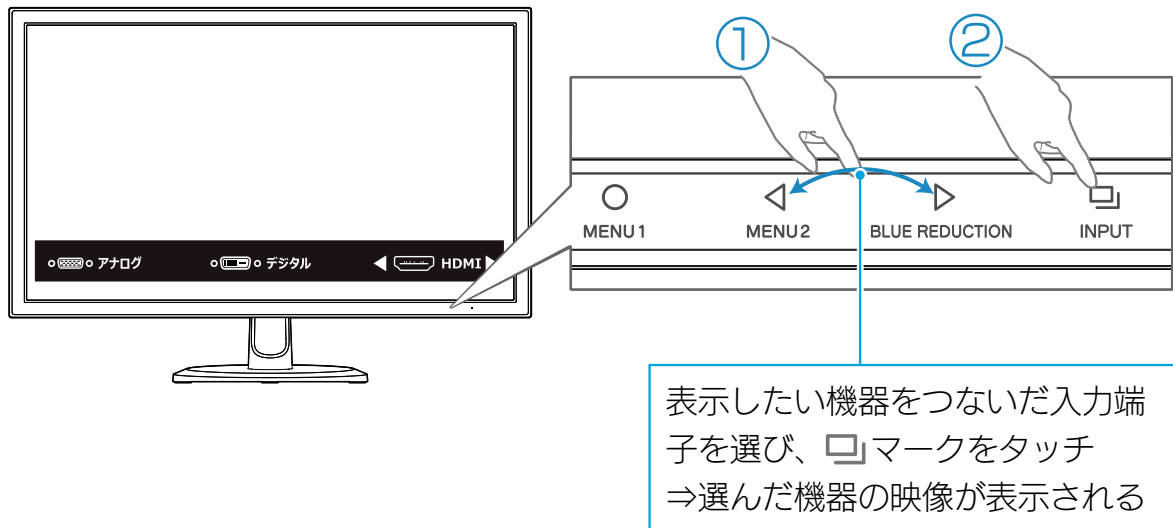
マークをタッチ

2

①　②

MENU 1　MENU 2　BLUE REDUCTION　INPUT

アナログ　デジタル　HDMI

表示したい機器をつないだ入力端子を選び、マークをタッチ
⇒選んだ機器の映像が表示される

輝度・コントラストを設定する

本製品の表示を調整します。

輝度	画面の明るさを調整できます。 画面が暗い場合などに調整します。
コントラスト	画面の明暗比を調整できます。 画面が白飛びしていたり、メリハリが欲しい場合などに調整します。

1

2

3

4

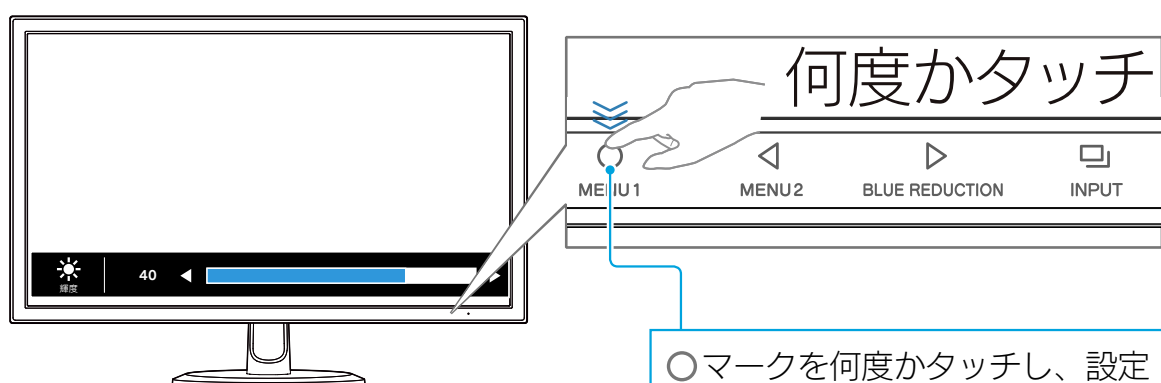
MENU 1
MENU 2
BLUE REDUCTION
INPUT

値を調整する

※ ◁▷マークを長押しすると、値が増減し続けます。

5

何度かタッチ

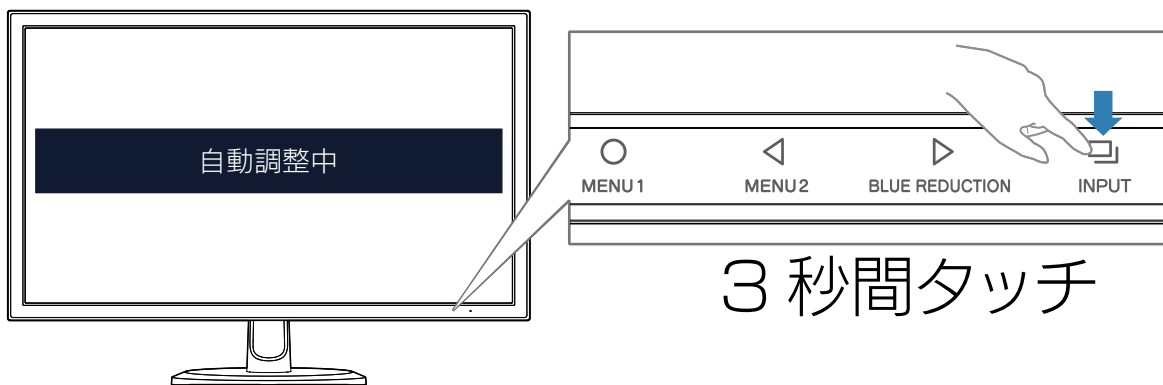
MENU 1
MENU 2
BLUE REDUCTION
INPUT

○マークを何度かタッチし、設定メニューを終了する

映像を調整する（アナログ）

パソコンをアナログ（VGA）入力している環境で、表示に「にじみ」や「ちらつき」がある場合にお試しください。

自動で調整する

マークを**3秒間**タッチします。
⇒自動で映像が調整されます。

設置する
設定する
付録
困ったときには

手動で調整する

自動調整で状態が改善されない場合は、手動で調整することにより状況が改善することがあります。

より効果的に調整するには

「LCD調整ユーティリティ」を使うと、調整用画面を表示し、効果的に調整ができます。
【映像調整用ソフトウェア(アナログ)】(38ページ)参照

調整する内容

ちょうど画面内に映像が収まるように、画面の表示幅(サイズ)と表示位置(水平位置、垂直位置)を調整します。
また、「微調整」で鮮明度(ノイズ除去)を調整します。

調整の方法

1

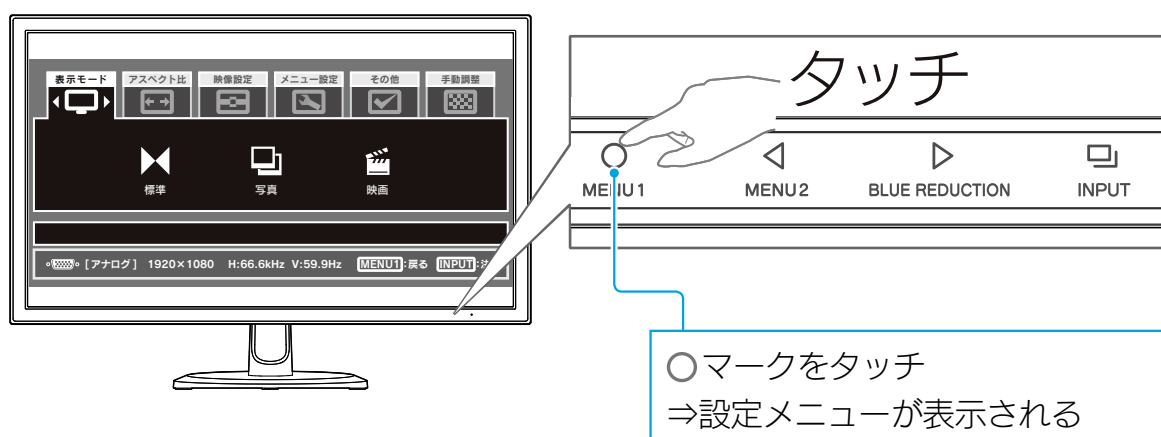
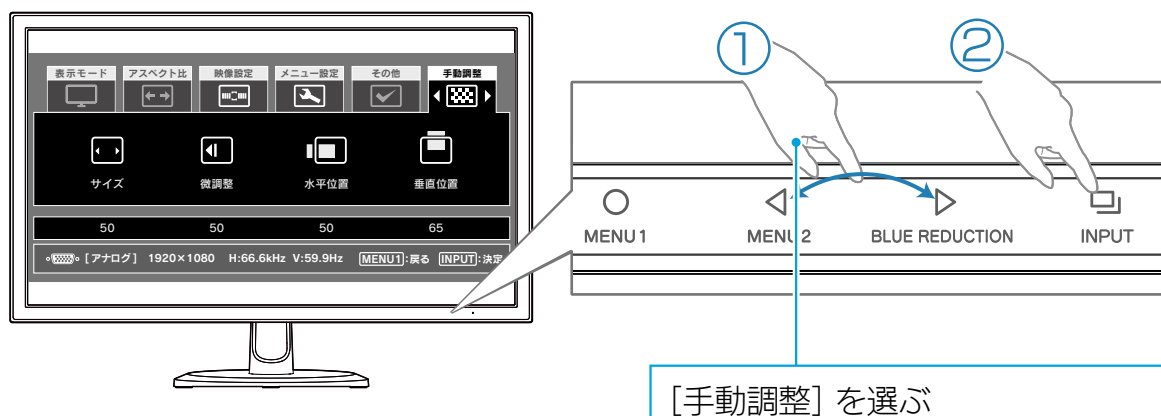
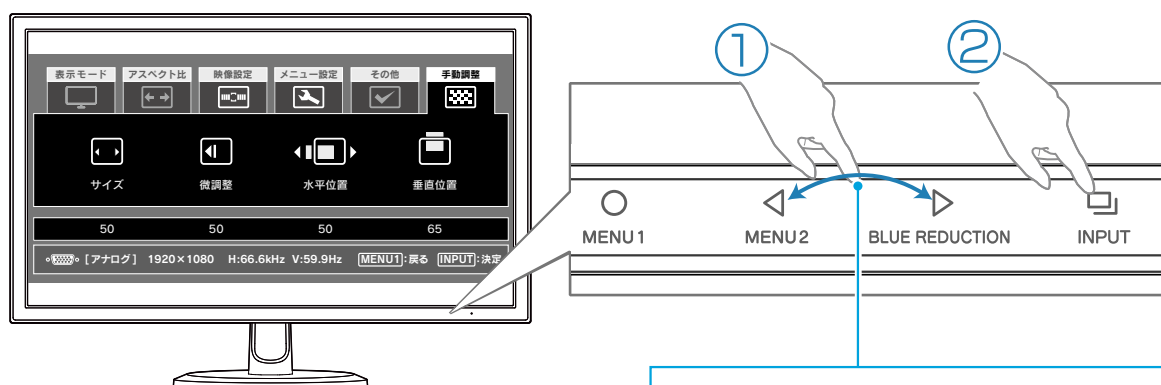
表示モード
アスペクト比
映像設定
メニュー設定
その他
手動調整
標準
写真
映画
[アナログ] 1920×1080 H:66.6kHz V:59.9Hz MENU1:戻る
タッチ
MENU1
MENU2
BLUE REDUCTION
INPUT

○マークをタッチ
⇒設定メニューが表示される

2

設置する
設定する
付録
困ったときには

3

①
②
MENU 1　MENU 2　BLUE REDUCTION　INPUT

調整する内容を選ぶ

サイズ	画面の水平幅
微調整	画面ノイズを低減
水平位置	画面の水平方向の位置
垂直位置	画面の垂直方向の位置

4

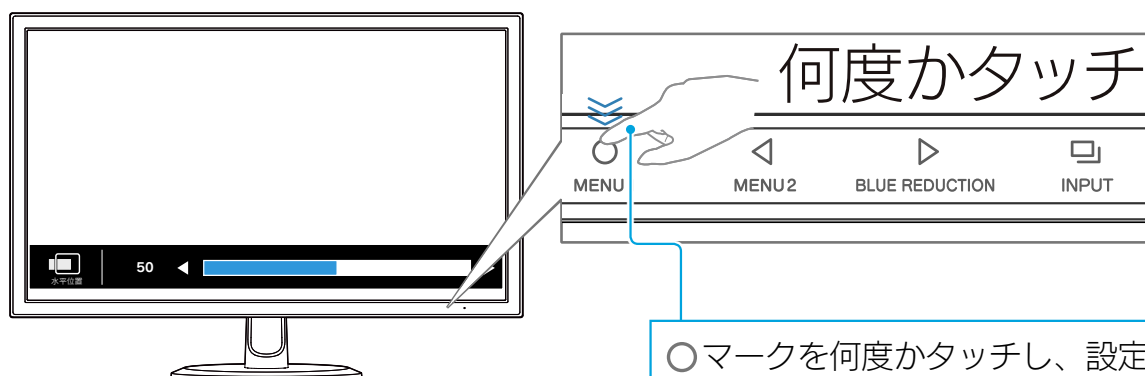
MENU 1　MENU 2　BLUE REDUCTION　INPUT

値を調整する

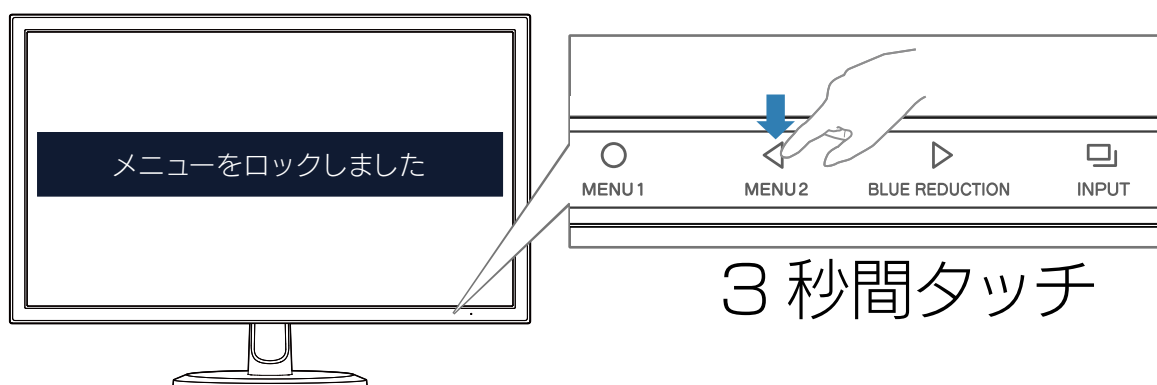
※ ◁▷マークを長押しすると、値が増減し続けます。

5

○マークを何度かタッチし、設定メニューを終了する

【もくじ】へ

メニューをロックする

設定した項目を変えたくない場合など、設定メニューを表示しないようにできます。

◁マークを**３秒間**タッチします。
⇒「メニューをロックしました」と表示され、ロックされます。
　ロックを解除するときも、同じ操作です。

省電力の設定をする（Windows）

パソコンの省電力モードを働かせるためには、お使いのWindowsにあった設定をしてください。

※ 省電力モードを働かせるためには、グラフィックアクセラレータボードがVESA DPM規格に対応している必要があります。

設置する
設定する
付録
困ったときには

Windows 8/7 の場合

1. （Windows 8のみ）デスクトップモードにする
2. デスクトップを右クリックし、表示されたメニューの［個人設定］をクリック
3. ［スクリーンセーバー］→［電源設定の変更］の順にクリック
4. ［バランス］か［省電力］を選び、その横の［プラン設定の変更］をクリック
5. ［変更の保存］をクリック

Windows Vista の場合

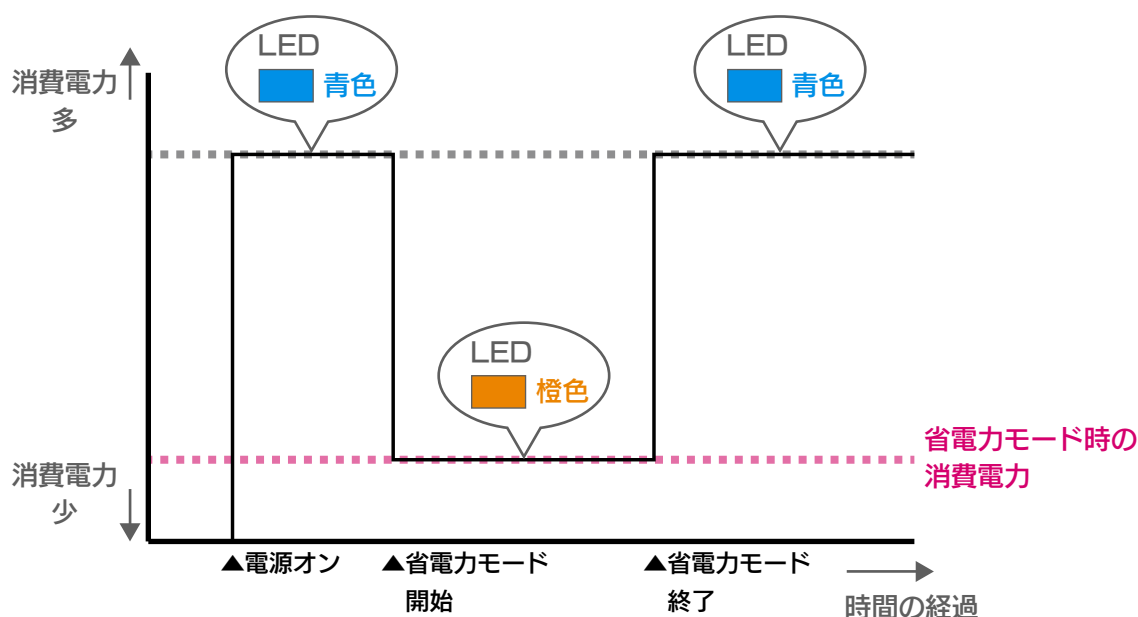
1 デスクトップを右クリックし、表示されたメニューの［個人設定］をクリック

2 ［スクリーンセーバー］→［電源設定の変更］の順にクリック

3 ［お気に入りプラン］の［プラン設定変更］をクリック

4 ［ディスプレイの電源を切る］で省電力になるまでの時間を設定する

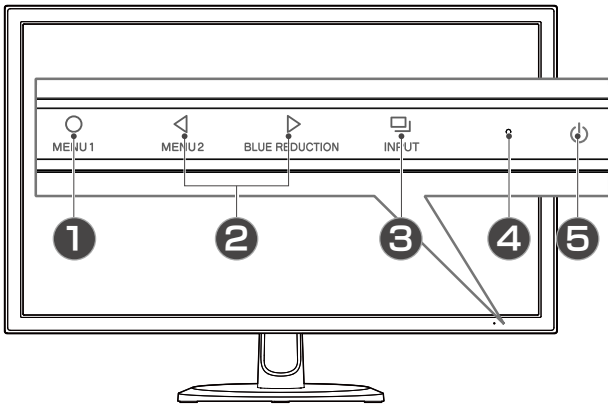
VESA DPM 対応のディスプレイ省電力の流れ

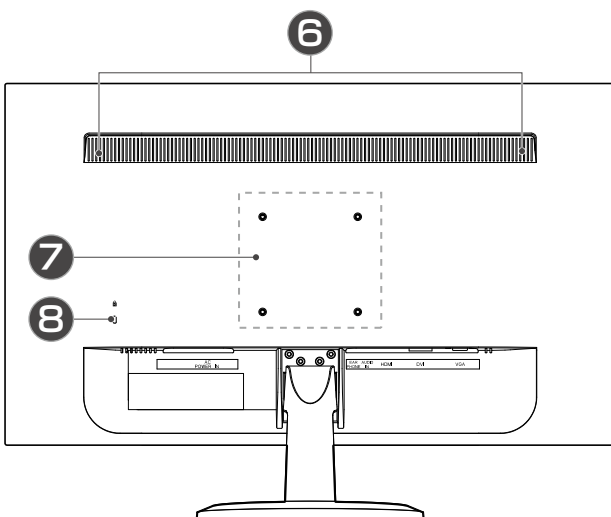
グラフィックボードから出力される信号の変化をディスプレイが検出して、省電力モードに移行したり、復帰したりします。

省電力モードとは

一定時間パソコンを操作しなかった場合やパソコンの電源を切った場合に、自動的にディスプレイの消費電力を抑える機能のことです。
省電力モード時は画面は真暗になります。

付録

各部の名称

前面

❶ ○	メインメニューを表示/キャンセルします。
❷ ◁▷	設定メニュー上で、項目を選んだり、調整値を増減します。 ※設定メニューが表示されていないときに押すと、◁で音声設定、▷でブルーリダクション設定を開きます。 ※設定メニューが表示されていないときに長押し(3秒)で、設定メニューをロック/ロック解除します。
❸	アナログ/デジタル/HDMI入力の切替や設定メニューの決定などに使います。 ※長押し(3秒)で、映像の位置を自動調整します。(アナログのみ)
❹ 電源ランプ	電源オフ時:消灯　電源オン時:青色　節電状態時:橙色
❺ ⏻	電源をオン/オフします。

背面

❻ スピーカー	音声を出力します。
❼ VESA ネジ穴	VESAアームなどを取り付けることができます。 【VESAアームを取り付ける】(40ページ)参照
❽ 盗難防止ホール	市販のセキュリティーケーブルを取り付けることができます。

設定メニュー

設置する
設定する
付録
困ったときには

表示モード

項目	説明
標準	標準の画面設定です。
写真	写真の編集・閲覧に適した画面設定です。
映画	DVD鑑賞、ゲームに適した画面設定です。

アスペクト比

項目	説明
固定	入力信号のアスペクト比(縦と横の比率)を保持したまま、画面の縦または横いっぱいまで拡大します。(スマートズーム)
フル	画面全体に拡大表示します。 入力信号のアスペクト比(縦と横の比率)は保持されない場合があります。

■画面表示例

アスペクト比	4:3、5:4	16:9	
解像度の例	640×480 1280×1024	1280×720	1920×1080
固定			
フル			

※ 1920×1080以外の場合、映像の拡大処理をするため、輪郭ににじみが生じる場合があります。

映像設定

項目		説明
ECO		[オン] にすると、「輝度」が「ECOステップ」に変わります。 ※ アナログ、デジタル(DVI-D) のみ表示されます。
輝度		画面の輝度を調整します。
	ECOステップ	削減したい消費ワット数を基準に、画面の輝度を調整します。 ※「ECO」が[オン] の時だけ、「輝度」の代わりに表示されます。
コントラスト		画面のコントラスト(明暗比) を調整します。
色温度		画面の色温度を設定します。 ※「ブルーリダクション」が[オフ] の場合のみ、表示されます。 ※ アナログ、デジタル(DVI-D) のみ表示されます。
	sRGB	IEC(国際電気標準会議)が策定した色空間の国際標準規格に設定します。
	ユーザー	赤/緑/青の各色を調整します。
色調整		画面の表示を調整します。明るさ、色合い、色の濃さ、シャープネスを調整します。 ※ HDMIのみ表示されます。
アドバンス	ガンマ	画面のガンマを設定します。 ※ アナログ、デジタル(DVI-D) のみ表示されます。 ※「色温度」を[sRGB] に設定していると、設定できません。
	オーバードライブ	中間色の応答速度を調整します。

▶輝度・コントラストを設定する 20

設置する
設定する
付録
困ったときには

メニュー設定

項目	説明
表示時間	操作していないときに設定メニューが消えるまでの秒数を設定します。
透過	設定メニューの背景を透過します。
ボーダー色	画面に表示される枠の濃さを調整します。 ※ 以下の場合に、枠が表示されます。 • 「アスペクト比」が[固定]に設定されている • 入力信号のアスペクト比が、16：9ではない
画面情報	[オン]にすると、入力信号が変化した時、画面右上に「入力信号」「解像度」「水平／垂直周波数」を表示します。
言語	設定メニューの言語を設定します。

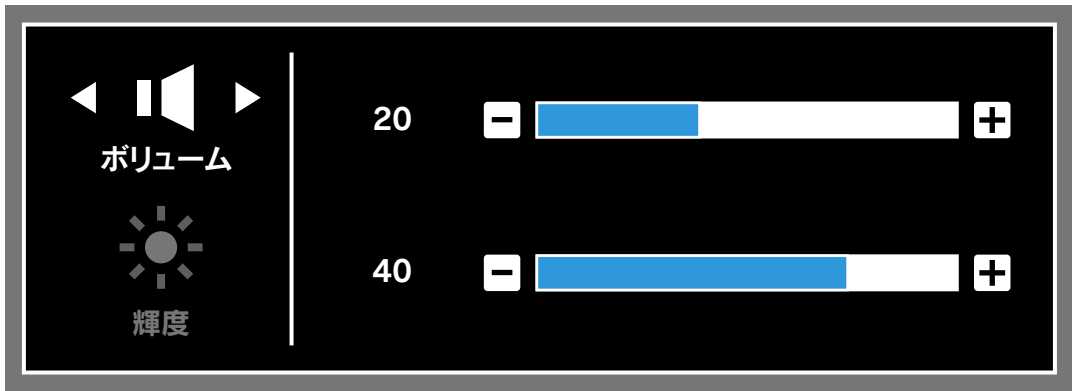
その他

項目		説明
スムージング		パソコン側で設定した解像度が、本製品の最大表示解像度より低い場合、画面上の文字がにじむことがあります。 その場合、スムージング調整をします。 ※ アナログ、デジタル(DVI-D) のみ表示されます。 ※ 最大解像度で表示している場合は、設定できません。
HDMI優先	オン	電源をオンにした時、必ずHDMIを表示します。
	オフ	電源をオンにした時、前回電源をオフにした時の入力を表示します。
自動電源オフ		本製品への映像入力が止まった場合の動作を設定します。
	手動復帰	省電力モードに入り、一定時間が経過したら、電源をオフにします。 ※ 電源をオンにするためには、⏻をタッチします。
	自動復帰	省電力モードに入る際、LEDも消灯します。 ※ 映像入力された場合、自動的に画面表示されます。
	切	省電力モードに入ります。 ※ 映像入力された場合、自動的に画面表示されます。
リセット		出荷時の設定に戻します。 ※ [言語] と [色設定] - [ユーザー] の設定は、元に戻りません。

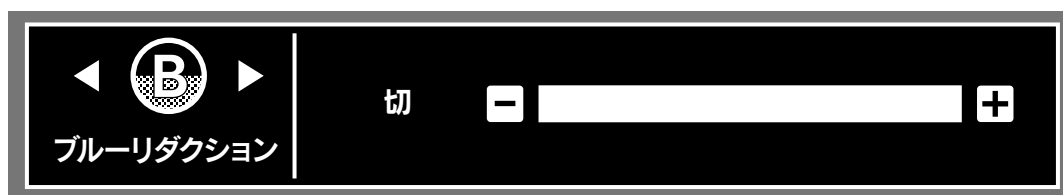
手動調整

項目	説明
サイズ	画面の水平幅を調整します。 ※ 垂直幅は調整できません。
微調整	画面ノイズを低減し、鮮明度を調整します。
水平位置	画面の水平方向の位置を調整します。
垂直位置	画面の垂直方向の位置を調整します。

▶映像を調整する(アナログ) 22

ダイレクト設定メニュー　ボリューム・輝度

項目		説明
音量		音量を調整します。
輝度		画面の輝度を調整します。
	ECOステップ	削減したい消費ワット数を基準に、画面の輝度を調整します。 ※「ECO」が[オン]の時だけ、「輝度」の代わりに表示されます。

▶音量を調整する　18

ダイレクト設定メニュー　ブルーリダクション

項目	説明
ブルーリダクション	画面から出るブルーライトを低減する度合いを調整します。

▶ブルーリダクションの設定をする　16

設置する
設定する
付録
困ったときには

映像調整用ソフトウェア（アナログ）

「LCD調整ユーティリティ」を使うと【映像を調整する（アナログ）】（22ページ）をより効果的におこなうことができます。

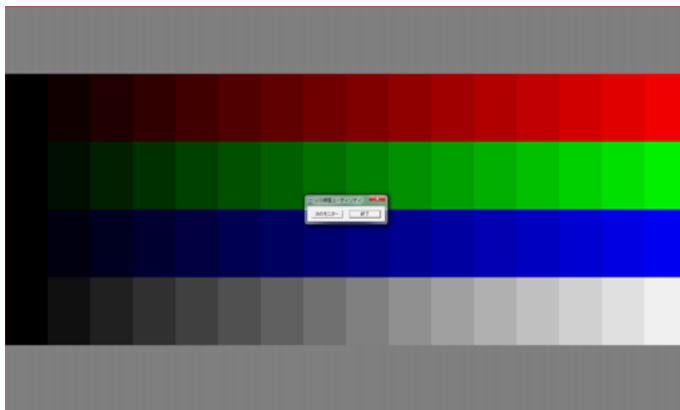
映像調整は、アナログ入力時のみ有効です
DVI（デジタル）やHDMIで入力した場合は設定の必要はありません。

ダウンロードする

1 以下の弊社ホームページを開く
http://www.iodata.jp/lib/product/l/4157.htm

2 ご利用のOSを選んで、ダウンロードする

実行する

1 ダウンロードした「LCDTOOL.EXE」ファイルをダブルクリック
⇒以下の画面が表示されます

2 本製品上に画面を表示する
※マルチディスプレイ環境の場合、［次のモニター］をクリックできます。
本製品上に手順1で表示させた画面を表示してください。

3 【自動で調整する】（22ページ）や【手動で調整する】（23ページ）をする

設置する
設定する
付録
困ったときには

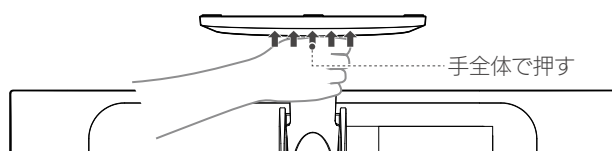
台座を取り外す

必要に応じて台座を取り外すことができます。

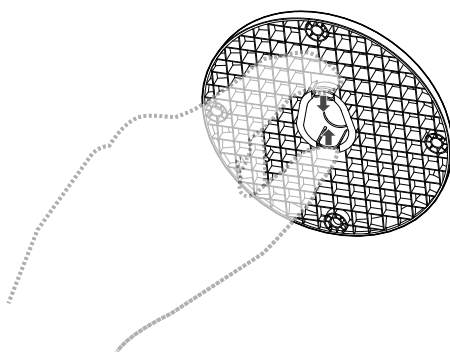
ご注意：取り付けの際は、以下に注意する

- 手や指をはさまない
- 液晶ディスプレイを床などに落としたり、パネルを傷つけたりしない
- ディスプレイ部（表示面）を手で強く押さえない
  液晶パネルが故障または破損する恐れがあります。

1 机などの平らなところに柔らかい布などを敷き、パネル面を下にして本製品を置く

2 足を握り、台座全体を押す

3 **2**をしながら、ツメをつまんで浮かせる

※ツメを浮かせるには、少し力が必要です。

設置する
設定する
付録
困ったときには

VESA アームを取り付ける

必要に応じて足を取り外し、VESA 規格に準拠した市販のアームなどの固定器具を取り付けることができます。アームやアーム取り付け用ネジは別途ご用意ください。

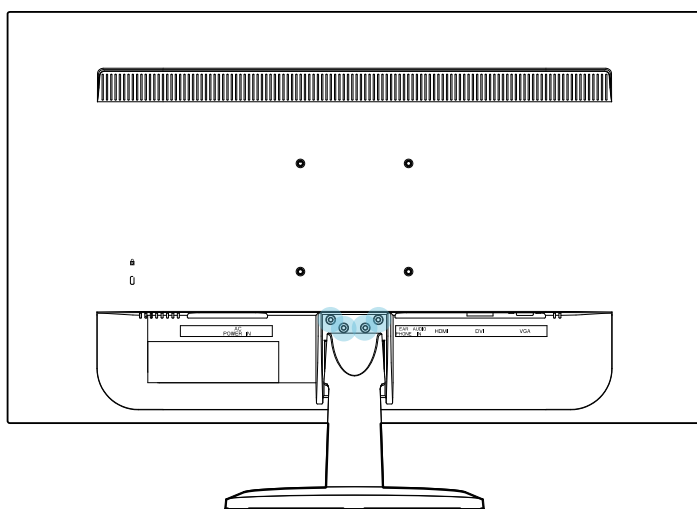
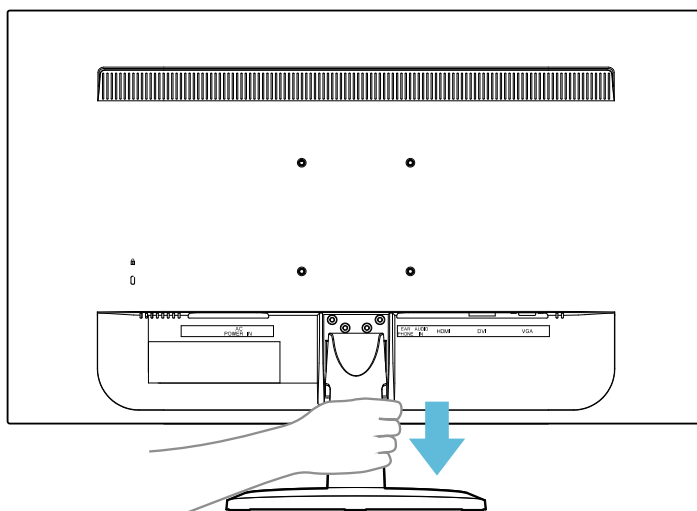
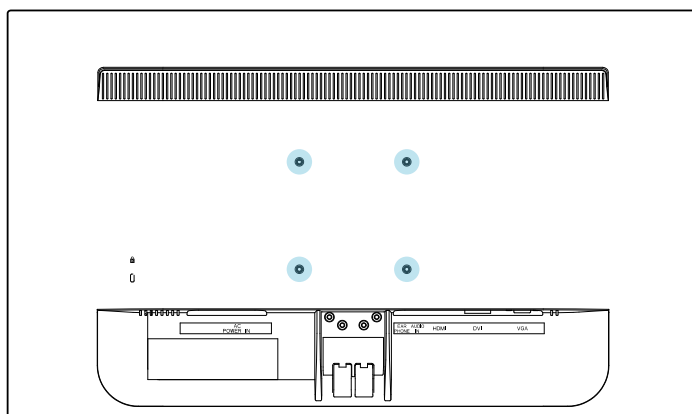
ご注意：取り付けの際は、以下に注意する

●手や指をはさまない
●液晶ディスプレイを床などに落としたり、パネルを傷つけたりしない
●ディスプレイ部（表示面）を手で強く押さえない
液晶パネルが故障または破損する恐れがあります。

1 机などの平らなところに柔らかい布などを敷き、パネル面を下にして本製品を置く

2 足を固定しているネジ４本を取り外す

3 足を引き抜く

【もくじ】へ

4　４か所のネジ穴を利用して、別途用意した固定器具を取り付ける

固定器具について

- 固定器具は本製品の質量に耐えられる100mmピッチのものをご用意ください。
  本製品の台座を除いた質量については、【ハードウェア仕様】（44ページ）をご覧ください。
- 固定用のネジは、「M4×10mm」のものをご用意ください。

ご注意：取り外したネジ、足について

- 再び足をつける際は、ネジをしっかりと締める
  取り外したネジ・足は別途袋などに入れ、大切に保管してください。
  取り付け方法については、この手順を参考にしてください。
- 取り外したネジを本製品に足を付けずに留めない
  故障の原因となります。

用語解説

液晶ディスプレイに関する一般的な用語を解説します。
※本製品に搭載していない機能も記載しています。

設置する
設定する
付録
困ったときには

用語	解説
CEC	「Consumer Electronics Control」の略。 HDMIケーブルでつながれた機器同士を操作するための規格。テレビとDVDプレーヤーをつないだ場合、テレビのリモコンで映像の再生などをできるようになります。 CEC対応機器間であっても、「メーカー独自コマンド」が存在するため、予期したとおりの動作がおこなわれない場合があります。 ※本製品は、CECには対応していません。
DDC/CI	「Display Data Channel Command Interface」の略。 パソコンから液晶ディスプレイなどをコントロールするためのVESA（Video Electronics Standards Association）規格。従来のアナログ・デジタルケーブルに組み込まれ、液晶ディスプレイとパソコンの間のプラグアンドプレイ機能に使用されていたDDC信号線を使って、特定のコントロールコマンドを送ることにより表示装置を操作することが可能となります。
DisplayPort	液晶ディスプレイなどのデジタル・ディスプレイ装置の為に設計された映像出力インタフェースの規格。DVIの後継を狙った規格で、標準化団体であるVESAによって策定されました。
DPM	「Display Power Management」の略。 VESA（Video Electronics Standards Association）が策定した、ディスプレイの節電機構をパソコン本体側から制御するための規格。省電力機能は、ディスプレイの水平／垂直同期信号を制御することで省電力モードに入ったり復帰したりします。
HDMIリンク	⇒ CEC
MHL	「Mobile High-definition Link」の略。 米Silicon Image社が開発したモバイル機器向けの高速映像伝送用のインターフェース規格です。MHL 2.0は1080p/60fpsの画像転送（HDMI 1.0の帯域）ができ、5端子を持つマイクロUSBコネクタを流用します。
OSD	「On Screen Display」の略。 ディスプレイの設定画面を画面の一部に表示して操作する機能。 本製品では、OSDを使っていろいろな調整をおこなうことができます。
sRGB	液晶ディスプレイやパソコンでは[RGB]、プリンターなどのカラー印刷では[CMYK]という方式でそれぞれ色を表現していますが、色によっては両者で違って見えることがあります。このような問題に対処するため、両者での色がほぼ同じになるような方式として考案された国際規格です。 [sRGB] 設定は6500K相当です。
TFT液晶	「Thin Film Transistor」の略。アクティブ・マトリックス型液晶の一種。 液晶画面の各ドットは、薄膜トランジスタ（TFT）で制御します。 現状、他の液晶技術（STN,DSTNなど）に比べ、品質面では最も優れています。
色温度	9300Kの発色は鮮やかですがやや青白く感じられます。 6500Kは昼光色とも呼ばれ自然な白色が表現できる設定となります。 7200Kはこれらの中間の設定となります。
スケーリング	液晶パネルは最適に表示できる解像度が決まっています（表示に最適な解像度は【ハードウェア仕様】（44ページ）内の【各接続端子の最大解像度】の項目を参照してください）。 パソコンから入力される映像信号が表示に最適な解像度でない場合、画像を液晶画面全体に表示させるために、液晶ディスプレイによって拡大処理（スケーリング）がおこなわれます。スケーリングがおこなわれることにより、画面に表示されている映像の輪郭が、かくばったりぼやけたりして見えます（スケーリングがおこなわれていないと、液晶画面全体に画像が表示されません）。
スムージング	スケーリングによって発生する、輪郭のギザギザを、なめらかに表示するための設定です。
走査線周波数	ディスプレイはドットの集まりです。ブラウン管のディスプレイでは、左上から右下に向かって電子ビームで必要なドットを光らせて画像を表示しています。 「走査する」とは、電子ビームが動く、つまり画像が表示されるという意味です。 走査周波数とは、ちょうど電子ビームの動く速さを示す「メトロノーム」のようなもので、走査周波数が高いほど電子ビームが速く動く、つまり画像表示が速いということになります。 走査周波数を低くすると画面のチラツキが目立つようになります。 逆に走査周波数を高くすると画面のチラツキは目立たなくなります。

【もくじ】へ

用語	解説
ドット	文字や図形を表現する基本単位となる点のこと。ピクセルとも呼ばれます。 パソコンで扱う文字や図形は、このドットの集まりで表現されます。
フリッカーレス	LEDバックライトの点滅・ちらつき（フリッカー）をなくすための技術です。 従来の一般的な液晶ディスプレイでは、LEDバックライトの輝度を調整するために、LED自体を高速に点滅させています。 それに引き換え、「フリッカーレス」では、LEDを高速に点滅させずに輝度を調整しています。 画面のちらつきを感じさせず、長時間使用による眼への負担を軽減するとされています。

ハードウェア仕様

設置する
設定する
付録
困ったときには

ハードウェア仕様

液晶パネル	パネルタイプ	TFT27型ワイド 白色LED非光沢パネル
	最大表示解像度	1920×1080
	画素ピッチ(mm×mm)	0.3114(H)×0.3114(V)
	表示面積(mm×mm)	597.888(H)×336.312(V)
	最大表示色	1677万色
	視野角度	上下:178° 左右:178°
	最大輝度	250cd/m^2
	コントラスト	1000:1
	応答速度	14ms [GTG] (オーバードライブ オン時 6ms [GTG])
水平走査周波数(kHz)		24.8～80.0kHz
垂直走査周波数(Hz)		56.3～75.0Hz
映像入力端子		アナログRGB、デジタルHDCP対応DVI-D、HDMI
音声入出力	音声入力	ステレオミニジャック φ3.5
	スピーカー	1.5W+1.5W(ステレオ)
	フォン端子	ステレオミニジャック φ3.5
定格電圧		AC100V 50/60Hz
消費電力	最大時	39W
	通常使用時(オンモード)	27.3W
	待機時	0.4W
パワーマネージメント		VESA DPM互換
プラグ&プレイ		VESA DDC2B
チルト角/スイベル角		上:20° 下:5° / -
高さ調整		-
VESAマウントインターフェイス		○(100mmピッチ)
盗難防止用ホール		○
外形寸法 (W×D×H)	台座あり	643×240×462(mm)
	台座なし	643× 51×382(mm)
質量	台座あり	5.6kg
	台座なし	5.4kg
使用温度条件		0℃～40℃
使用湿度条件		20%～80%(結露なきこと)
各種取得規格・法規制		VCCI Class B、J-Mossグリーンマーク、RoHS指令準拠、電気用品安全法(PSE)、国際エネルギースタープログラム
保証期間		3年間

※外観及び仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。

表示面上に滅点(点灯しない点)や輝点(点灯したままの点)がある場合があります

これは、液晶パネル自体が99.999%以上の有効画素と0.001%未満の画素欠けや輝点をもつことによるものです。
故障あるいは不良ではありません。修理交換の対象とはなりませんので、予めご了承ください。

【もくじ】へ

設置する
設定する
付録
困ったときには

解像度および周波数

●信号タイミング

つなぐパソコンが表示モードに対応しているかご確認ください。

対応パソコン		表示モード	水平周波数 (kHz)	垂直周波数 (kHz)	アナログ	デジタル
PC-9800シリーズ		640×400	24.8	56.4	○	-
	Windows 搭載 パソコン	720×400	31.5	70.1	○	○
Apple Mac		640×480	31.5	59.9	○	○
			37.9	72.8	○	○
			37.5	75.0	○	○
		800×600	35.2	56.3	○	○
			37.9	60.3	○	○
			46.9	75.0	○	○
			48.1	72.2	○	○
		1024×768	48.4	60.0	○	○
			56.5	70.1	○	○
			60.0	75.0	○	○
		1280×720	45.0	60.0	○	○
		1280×1024	64.0	60.0	○	○
			80.0	75.0	○	○
		1440×900	55.5	59.9	○	○
			55.9	59.9	○	○
		1920×1080	67.5	60.0	○	○
		640×480	35.0	66.7	○	-
		832×624	49.7	74.5	○	-
		1024×768	60.2	74.9	○	-

※ パソコンからの信号はすべてノンインタレースである必要があります。
※ Macでアナログ接続ケーブルを使う場合は、別途市販の変換アダプターが必要になる場合があります。
※ コンポジットシンク、シンクオングリーンには対応しておりません。

●各接続端子の最大解像度

接続端子	HDMI	アナログRGB	デジタルDVI-D
最大解像度	1920×1080 (60Hz)	1920×1080 (60Hz)	1920×1080 (60Hz)

設置する
設定する
付録
困ったときには

パソコンをアナログ(VGA) でつないでいるが、「ゆらぎ」や「ちらつき」が見える

【映像を調整する(アナログ)】(22ページ) をご覧になり、「自動調整」や「手動調整」をお試しください。

文字がにじんで見える

ご利用用途に差し支えない限り、液晶ディスプレイの最大表示解像度(【ハードウェア仕様】(44ページ) でご確認ください) に応じた数値で、パソコン側の設定をおこなうことを、強くおすすめいたします。これにより、文字のにじみを軽減することができます。

にじみの原因

パソコン側で設定している解像度が、液晶ディスプレイの最大表示解像度よりも低い場合、文字が拡大して表示されます。拡大されることで、文字がにじんで見えることがあります。特に、双方の解像度の縦横の比率が異なるとき(例：1280x1024 と1024x768 では、縦横の比率が異なります)、円の図形等を表示したときなど、にじみがひどく、ゆがんで見えることがあります。

スピーカーから音が出ない

- パソコンをHDMIでつないでいる場合
  パソコン側で音声の出力先を設定する必要がある場合があります。
  【パソコン側の設定(HDMIでつないだ時)】(7ページ) 参照
- パソコンをVGAでつないでいる場合
  パソコンの音声出力と本製品のをオーディオケーブルでつないでください。
- 全般
  ○機器側の音量設定を確認してください。
  ○音声ソースが想定していない機器に設定されているかもしれません。設定メニューの[音声設定] →[音声ソース] をご確認ください。
  ○イヤホンをつないでいると、スピーカーから音が出ません。

台座、足を取り外したい

【台座を取り外す】(39ページ)、【VESAアームを取り付ける】(40ページ) をご覧ください。